

不登校対策支援プラン

更新日 4 月 5 日

プランの策定にあたって

県内において不登校児童生徒数は増加傾向にある中、不登校対策では、対象や課題性に基づいた取組が求められています。全ての児童生徒を対象とした取組や不登校の予兆が見られる児童生徒への支援、欠席が継続している児童生徒への支援を組織的かつ計画的に行うことが必要です。

本校では、実態を把握し、以下の目標や取組を設定し、教職員が一丸となり対策を進めることで、誰一人取り残すことのない、持続可能な不登校対策や支援を行います。

不登校対策の目標

- 1 前年度、予兆が見られた児童が不登校とならないようにする。
- 2 別室または適応指導教室へ登校している児童が教室での授業に参加する割合を増やす。
- 3 全ての不登校の児童にカウンセラーや関係機関等と連携し、誰一人取り残さない。

不登校対策における重層的支援構造

(参考：生徒指導提要R4.12)

困難課題対応
不登校児童生徒対象

- ・不登校児童生徒へのカウンセリングや別室登校
- ・保護者や関係機関と連携した支援
(拡大ケース会議の実施)

早期発見対応
予兆のある生徒対象

- ・休み始めの段階でのアセスメント
(校内ケース会議)
- ・組織的対応、保護者と連携した支援

未然防止教育
全ての児童生徒対象
不登校対策を意識する

- ・児童生徒がSOSを出す力を獲得
- ・教職員が児童生徒の変化に気づきSOSを受けとめる力の向上

発達支持
全ての児童生徒対象
不登校を意識しない

- ・安全・安心な居場所となるための「魅力ある学校づくり」と「分かりやすい授業」の工夫
- ・教育相談体制の充実

不登校対策チーム構成

管理職、不登校担当、生活指導担当、学級担任、特別支援学級担任、養護教諭、スクールカウンセラー、通級指導担当等

不登校児童生徒支援関係機関等

朝来市社会福祉課、適応指導教室「すまいるルーム」、豊岡こども家庭センター、児童家庭支援センター「リボン」、放課後デイサービス「エスポワールこじか」・「めぐみ」等

4つの層での取組 等

発達支持

- ・授業の中で、安心して学習できる集団づくりをする。
- ・一人一人の個性をいかした学級経営の実践を図る。

未然防止教育

- ・児童の人間関係や家庭環境を把握する。
- ・該当児童とコミュニケーションを図り、相談しやすい関係を築く。

早期発見対応

- ・健康観察、個別面談、ICTを活用した発信等により、小さな変化に気づく。
- ・職員会議等で児童の情報交換をする。

困難課題対応

- ・校内に別室を設置し、安心して過ごせる場所を確保する。
- ・定期的に保護者面談を実施し、学校と家庭での情報共有を行う。